

(様式第 10)

杏学発 第 26-106 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 杏林学園
理事長 松田 博青

杏林大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒181-8611 東京都三鷹市新川6丁目20番2号
氏 名	学校法人 杏林学園 理事長 松田 博青

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

杏林大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒181-8611 東京都三鷹市新川6丁目20番2号	電話(0422) 47 - 5511
----------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科	
8 代謝内科 9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科又はアレルギー科 11 リウマチ科 12 13	
14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 乳腺外科 4 心臓血管外科(心臓外科及び血管外科の両方を標榜) 5 内分泌外科 6 小児外科 7		
8 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科
⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科 2 心臓血管外科 3 形成外科 4 小児外科 5 歯科口腔外科 6 リハビリテーション科 7 美容外科
8 神経内科 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
32床	0床	0床	0床	1,121床	1,153床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年 7月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	311人	303人	483.4人	看護補助者	6人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	2人	2人	2.1人	理学療法士	18人	臨床検査技師	99人
薬剤師	58人	0人	58人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	19人	その他	0人
助産師	97人	1人	97.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,447人	5人	1450人	臨床工学技士	27人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	2人	0人	2人	栄養士	0人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	0人	1人	0.4人	歯科技工士	0人	事務職員	83人
管理栄養士	15人	1人	15.9人	診療放射線技師	58人	その他の職員	9人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年 6月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	21人	眼科専門医	15人
外科専門医	41人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	18人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	15人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	10人
		合 計	212人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	829.2人	人	829.2人
1日当たり平均外来患者数	2124.2人	39.0人	2163.8人
1日当たり平均調剤数	外来 211 剤	入院 1,496 剤	
必要医師数			217人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			28人
必要(准)看護師数			490人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	2040.25 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	46 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 341.6 m ² [移動式の場合] 台数 0 台		病床数	18 床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 52.16 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	857.69m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体自動搬送分注分析システム、他			
細菌検査室	249.88m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養検査装置、自動同定・薬剤感受性装置、他			
病理検査室	338.67m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) コンピューター制御による自動脱脂・脱水浸透装置、他			
病理解剖室	331.92m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、超音波洗浄器、他			
研究室	3217m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 高速カラー画像解析システム、他			
講義室	1404m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	収容定員	1084 人
図書室	2000.83 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	26万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	48.1%	逆紹介率	24.8%
算出根拠 A: 紹介患者の数			21,798 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			13,620 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			4,577 人
D: 初診の患者の数			54,817 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	NO吸入療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法			
医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児の蘇生後脳症に対する脳低温療法			
医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者に対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	骨盤骨折に対する集学的治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 骨盤内血管損傷に対するTAEと創外固定器装着によるDCO			
医療技術名	腹部実質臓器損傷に対するIVR(侵襲的放射線学的治療)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 TAEにより止血し開腹手術を回避、腹部実質臓器の温存を図る			
医療技術名	重症顔面外傷に対する急性期の治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 緊急気道確保(輪状甲状靭帯切開、気管切開を含む)を行い、呼吸の早期安定を図る			
医療技術名	間接熱量計を応用した重症患者の栄養管理	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 主に重症熱傷患者に応用し適切な栄養管理を施行			
医療技術名	経皮的心肺補助療法(PCPS)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者や重症心原性ショックに対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	重症上部消化管出血に対する内視鏡的クリップ止血術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 潰瘍底部の露出血管などの出血部位に内視鏡的にクリップをかけ止血を図る			
医療技術名	経皮的動脈遮断術を利用した重症外傷治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔内や後腹膜腔出血を一時的に制御し、IVRや開腹手術にて止血を図る			
医療技術名	大動脈瘤ステントグラフト移植術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ハイリスクの胸部または腹部大動脈瘤症例に対し、カテーテル法により動脈内にステントグラフトを留置し、瘤破裂の予防を行う			

医療技術名	胸部大動脈瘤手術時オープンステント	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 下行大動脈瘤に及ぶ弓部大動脈瘤置換術において、術野用ステントグラフトを末梢側に挿入し、深部での末梢吻合を省略して、侵襲の軽減を行う			
医療技術名	人工血管を使用した血液透析用内シャント	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 血液透析用内シャントは患者の静脈の性状に左右される。適切な静脈がない場合でも最近開発された人工血管を使用することにより、血液透析が円滑に施行されるようになった			
医療技術名	ウマ・ウシ心膜を用いた心臓凝固	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 感染症大動脈瘤に対して、人工血管は異物があり、感染の再発率も高い。これに代わって、ウマ・ウシ心膜をロール状にして置換術を行うことにより再発を防止する			
医療技術名	赤外線凝固器を用いた心臓凝固	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 心臓腸瘍の切除後残存腫瘍細胞や感染性心内膜炎手術時の残存膿瘍、細菌に対して、赤外線熱傷灼を行うことにより治療の根治性をより高める			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術	取扱患者数	86人
当該医療技術の概要 早期前立腺癌に対してダヴィンチを用いたロボット手術			
医療技術名	腹腔鏡下後腹膜リンパ郭清術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 精巣癌の後腹膜リンパ節転移に対する治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 腎動脈をクランプし腎腫瘍部位のみを切除する治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎摘除術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 腎腫瘍に対して行う治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎尿管全摘術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 腎盂尿管腫瘍に対して行う治療			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄に対して行う治療			
医療技術名	小線源療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 125I密封小線源を前立腺内部に埋没させ照射する治療			
医療技術名	HoLEP	取扱患者数	68人
当該医療技術の概要 前立腺肥大症に対する経尿道的ホルミウムレーザー前立腺核出術			

医療技術名	心外膜アブレーション	取扱患者数	220人
当該医療技術の概要 心内腔より治療が困難な不整脈に対し経皮的に心のう内へカテーテルを挿入する治療である			
医療技術名	放射性同位元素Sr89:ストロンチウムを用いた癌性疼痛	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 β線(ベータ線)を放出する放射線同位元素Sr89(ストロンチウム)を用いて悪性腫瘍骨転移による疼痛緩和を目的とする			
医療技術名	対外的根治強度変調放射線治療	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 腫瘍病巣に標的を絞る多方向照射野に対し高エネルギーX線照射線量の強弱をつけ治療を行い、副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的とする			
医療技術名	早期前立腺癌に対する密封小線源を用いた根治的放射線療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 I125(ヨウ素125)密封小線源を前立腺内部に埋没させ、照射範囲を限局し、副作用を最小限に抑え且つ治療効果向上を目的とする			
医療技術名	乳癌のラジオ波焼灼治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 他施設と共同で第Ⅱ期試験として実施している。尚、先進医療Bとは別の試験である			
医療技術名	腹腔鏡手術	取扱患者数	182人
当該医療技術の概要 腹部に小さな穴を数ヶ所あけ、腹腔鏡内を炭酸ガスで膨らませ術野を確保。穴からカメラや器具を挿入し、中の様子をモニターで確保しながら腫瘍を摘出			
医療技術名	子宮鏡下手術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 経腔的に子宮内に内視鏡を挿入し、子宮内にできている筋腫やポリープを切除する			
医療技術名	性器脱メッシュ法手術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 下垂した臓器と膈壁との間に、伸びない素材(高強度のポリプロピレン線維)を入れて壁をつくる術式。子宮を温存、膈壁切除もしないので術後に膈の状態が本来の自然な形態に復帰。術後のQOLの向上を考慮した手術			
医療技術名	腹腔鏡下子宮体がん根治術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 5-12mmの小切開による腹腔鏡下に手術を行う			
医療技術名	アフエーシス、血漿交換による特殊血液浄化療法	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 難治性の腎疾患・膠原病・自己免疫疾患、閉塞性動脈硬化症などに対し、体外循環を用いた血漿交換や血漿吸着や白血球除去などのアフエーシス療法を行っている			
医療技術名	難聴の遺伝子解析と臨床応用	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 原因不明あるいは遺伝性の疑われる難聴者とその親族において、難聴遺伝子の解析を行ない難聴の臨床所見との関連性を調べて、難聴の原因や病態を明らかにするとともに、検査法、治療法、聴力予後の予測法、予防法などへの応用を目指すものである			
医療技術名	センチネルリンパ節生検による頭頸部癌低侵襲手術の確立	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 センチネルリンパ節生検により極めて高い精度でリンパ節転移の状態を知ることができ、頭頸部癌患者さんへ最適かつ低侵襲の外科手術を行える可能性がある。現在では国内の多施設による臨床試験が行われている。この臨床試験に当科も参加している			

医療技術名	ナビゲーションシステムを使用した鼻・副鼻腔・頭蓋底手術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 最新のナビゲーションシステムを導入した内視鏡手術により、低侵襲で安全に鼻・副鼻腔から頭蓋底にわたる広い範囲での外科手術を行っている			
医療技術名	抗神経抗体測定による免疫性神経疾患の診断	取扱患者数	503人
当該医療技術の概要 患者血清中の各種抗神経抗体を測定し、免疫性神経疾患が疑われる患者の診断を行う			
医療技術名	重症薬疹におけるウイルス再活性化の関与の検討	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 全血、唾液中のウイルスDNA、血清ウイルス抗体価の変動を確認し、その結果を治療に反映させている			
医療技術名	特定薬剤による重症薬疹患者のHLAタイピングの検討	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 特定薬剤による重症薬疹患者の発症にはHLAタイプが関与していることが知られてきている。我々は他施設との共同研究で特定薬剤により発症した重症薬疹患者のHLAタイプを調べることで重症薬疹に発展する可能性の多寡があらかじめ推測できないかどうか検討を進めている			
医療技術名	産後出血に対する選択的子宮動脈塞栓術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 癒着胎盤、弛緩出血などを原因として持続する産後出血に対し、主たる責任血管である子宮動脈を経カテーテル的に塞栓する手技。低侵襲かつ効果的な出血コントロールが可能であり、合併症が少なく妊厚性も温存されることが多い			
医療技術名	バルーンカテーテルを用いた血流コントロール下外科手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 巨大血管奇形症例の手術時に、病変の中枢側の動脈をバルーンカテーテルで選択的に閉塞し、一時的に血流を減少させ、術中出血量をコントロールする手技			
医療技術名	胎児、胎盤MRI検査	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 胎児：胎児期に形態学的早予が疑われる症例に対し、超音波に引き続き行われる。頭蓋内、胸腔内、腹腔内疾患に行う。 胎盤：帝王切開時のリスク回避に行う			
医療技術名	腹腔鏡下Nissen手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	腹腔鏡下Heller-Dor手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 食道アカラシアに対する腹腔鏡手術			
医療技術名	腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下手術に切除・郭清を行うことにより低侵襲化を図る			
医療技術名	腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝嚢胞に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 従来の4孔式に比べ、低侵襲で美容的にも優れる手術			

医療技術名	膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 膵頭部および膵頭部周辺に対して行う手術			
医療技術名	膵全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 膵全体に広範囲に及ぶ病変に対して行う手術			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	61例
当該医療技術の概要 大腸腫瘍に対して行う低侵襲手術			
医療技術名	食道静脈瘤硬化療法、食道静脈結紮術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 食道静脈瘤に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的胃粘膜切除術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 胃腫瘍(胃がん、胃腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	内視鏡的逆行性膵胆管造影	取扱患者数	489人
当該医療技術の概要 膵管、胆管を造影し、診断する(その後ドレナージなどの治療を行う)			
医療技術名	腹腔鏡下肝生検	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 腹腔鏡にて肝臓を観察、その後針生検を行う			
医療技術名	肝動脈化学塞栓術	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要 肝細胞癌に対する治療 栄養血管をつめ、そこから抗がん剤の投与を行う			
医療技術名	超音波下局所療法(経皮的エタノール局注療法、ラジオ波焼灼療法)	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 肝細胞癌に対する局所療法			
医療技術名	内視鏡的大腸粘膜切除術	取扱患者数	289人
当該医療技術の概要 大腸腫瘍(大腸がん、大腸腺腫)に対する内視鏡的治療法			
医療技術名	経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD、PTGBD)	取扱患者数	148人
当該医療技術の概要 閉塞性黄疸などに対する経皮的治療			
医療技術名	血縁者間同種骨髄移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 血縁者をドナーとした同種骨髄移植			

医療技術名	血縁者間同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 血縁者をドナーとした同種末梢血幹細胞移植			
医療技術名	非血縁者間同種骨髄移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 骨髄バンクを介した非血縁者をドナーとした同種骨髄移植			
医療技術名	臍帯血移植	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 臍帯血バンクを介した臍帯血を用いた同種移植			
医療技術名	先天性心疾患に関する超音波検査	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 先天性心疾患が疑われる症例に対し、胎児循環器疾患の専門的知識を有する医師チームが確定診断を行う			
医療技術名	胎児MRI検査	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 胎児期に形態学的異常が疑われる症例に対し、超音波検査に引き続き行う			
医療技術名	習慣性流産に対するヘパリン自己皮下注射	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 習慣性流産例にヘパリン自己皮下注射の指導を行い、妊娠継続する			
医療技術名	選択的子宮動脈塞栓術(産褥異常出血)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 産褥異常出血、瘢痕部妊娠の症例に対し、血管造影にて出血部位を固定し塞栓止血する			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	53人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	20人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・重症筋無力症	29人	・原発性胆汁性肝硬変	85人
・全身性エリテマトーデス	254人	・重症急性膵炎	12人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	58人
・サルコイドーシス	90人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・特発性間質性肺炎	30人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	137人	・網膜色素変性症	35人
・特発性血小板減少性紫斑病	40人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・肺動脈性肺高血圧症	48人
・潰瘍性大腸炎	108人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	14人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	43人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	56人
・脊髄小脳変性症	15人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	29人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	9人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	128人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋委縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	342人	・球脊髄性筋委縮症	1人
・アミロイドーシス	18人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	9人
・後縦靭帯骨化症	52人	・肥大型心筋症	61人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	22人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	84人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	64人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	8人	・黄色靭帯骨化症	38人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、 先端巨大症、下垂体機能低下症)	130人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救命救急入院料4
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料1・3
・超急性期脳卒中加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料1
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・総合評価加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算(Ⅱ)
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・喘息治療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病合併症管理料	・埋込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料	・胎児心エコー法
・外来緩和ケア管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・院内トリアージ実施料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来リハビリテーション診療料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・ロービジョン検査判断料
・地域連携診療計画管理料	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
・がん治療連携計画策定料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算1
・認知症専門診断管理料	・画像診断管理加算2
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・外傷全身CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・大腸CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・大動脈パルーンポンピング法(IABP法)
・認知療法・認知行動療法	・補助人工心臓
・透析液水質確保加算	・経皮的動脈遮断術
・磁気による膀胱等刺激法	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)に限る。)	・ダメージコントロール手術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・体外衝撃波胆石破碎術
・羊膜移植術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・網膜再建術	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療にかかるものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療にかかるものに限る)	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・膀胱水圧拡張術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・焦点式高エネルギー超音波療法
・経皮的動脈弁置換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・輸血管理料Ⅰ

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
特になし				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ぜん息患者の増悪及び未発症成人の発症の予測のための気道バイオマーカーの確立とその大気汚染物質の影響評価への応用に関する調査研究	滝澤 始	内科学(I)	千円 510	補 委 独立行政法人環境再生 保全機構助成金
難治性血管炎に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 4,050	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
進行性腎障害に関する調査研究	有村 義宏	内科学(I)	千円 1,300	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ANCA関連腎炎発症における好中球細胞外トラップおよび相補的MPOの役割の解析	駒形 嘉紀	内科学(I)	千円 900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性希少肺疾患(肺胞蛋白症、先天性間質性肺疾患、オスラー病)に関する調査研究	石井 晴之	内科学(I)	千円 1,300	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
Densitometryを用いた肺胞蛋白症における高分解能CT所見の意義	石井 晴之	内科学(I)	千円 1,000	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
吸入GM-CSFは肺胞蛋白症病変をどのように改善するか	石井 晴之	内科学(I)	千円 150	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼吸器感染症が慢性炎症を増悪させる分子病態の解明:異型肺炎とCOPD	和田 裕雄	内科学(I)	千円 800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺動脈性肺高血圧症患者資料を用いたBMP2遺伝子のエピジェネティクス制御の解明	佐藤 徹	内科学(II)	千円 2,300	補 委 学術研究助成基金助成健
肺静脈閉塞症(PVOD)の診断基準確立と治療方針作成のための統合研究	佐藤 徹	内科学(II)	千円 250	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
肺動脈性肺高血圧症患者試料を用いたBMP2遺伝子のエピジェネティクス制御の解明	佐藤 徹	内科学(II)	千円 1,800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
2型糖尿病での膝ラ氏島内マクロファージ浸潤の分子機構の解明とその予防戦略の構築	石田 均	内科学(III)	千円 1,900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖質制限食に対する生体反応~糖尿病モデルマウスを用いた遺伝子学的検索~	犬飼 浩一	内科学(III)	千円 1,500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
杏林大学におけるがん研究基盤の形成	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 16,000	補 委 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
切除不能局所進行膵がんに対する標準的放射線療法法の確立に関する研究	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 17,385	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 3,200	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
陽子線治療の有効性検証を目的とした多施設臨床試験の実施とその体制整備	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	千円 300	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
高齢がん患者における高齢者総合的機能評価の確立とその応用に関する研究	長島 文夫	内科学(腫瘍科)	千円 6,385	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者総合的機能評価によるQOLに配慮した抗がん剤新規投与法の開発	長島 文夫	内科学(腫瘍科)	千円 800	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に関する研究事業	神崎 恒一	高齢医学	千円 8,924	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する教育システムの構築に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 2,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括的ケア研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者の薬物治療の安全性に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
加齢による運動器への影響に関する研究-サルコペニアに関する包括的検討-	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,500	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 3,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
在宅医療支援病棟を中心とした地域在宅医療活性化についての検討及び多職種協働による在宅患者への介入の有効性評価について	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,400	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,500	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
虚弱の進行に関わる要因に関する研究	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,200	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
大脳皮質下病変に関連する認知障害及び機能障害とアミノ酸トランスポーターの関与	神崎 恒一	高齢医学	千円 1,400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高齢者の認知機能低下に対する、心機能の向上を介した新規治療概念の構築	長谷川 浩	高齢医学	千円 1,000	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
認知行動療法等の精神療法の科学的エビデンスに基づいた標準治療の開発と普及に関する研究	菊地 俊暁	精神神経科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成	蕨澤 融司	小児科学	千円 450	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
糖質ステロイド代替薬の創薬	楊 國昌	小児科学	千円 2,000	補 委 日本私立学校振興・共済事業団 大学間連携等による共同研究
ネフローゼ症候群における糖質ステロイド感受性機構の解明	西堀 由紀野	小児科学	千円 1,500	補 委 母子健康協会
ポドサイトの分化と機能維持を制御する新規エピジェネティック分子NSD3の役割	伊藤 雄伍	小児科学	千円 500	補 委 森永奉仕会
ポドサイトの分化と機能維持を制御する新規エピジェネティック分子NSD3の役割	倉山 亮太	小児科学	千円 1,400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究	井本 滋	外科学	千円 2,400	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	呉屋 朝幸	外科学	千円 150	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
難治性膝疾患に関する調査研究	杉山 政則	外科学	千円 450	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高齢者術後せん妄に対する予防法・治療法の標準化に関する研究	杉山 政則	外科学	千円 1,000	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	正木 忠彦	外科学	千円 250	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
乳癌治療における間質反応とエネルギー代謝に関する研究	上野 貴之	外科学	千円 1,200	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
乳癌ホルモン療法効果予測におけるメニンの可能性	上野 貴之	外科学	千円 400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
膵粘液性嚢胞腫瘍の発生進展におけるエストロゲンレセプターの関与と役割を初めて解明	鈴木 裕	外科学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌先進部におけるEMTに関する検討	小林 敬明	外科学	千円 2,700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
福島第一原発での教訓を踏まえた突入撤退判断システムの開発	山口 芳裕	救急医学	千円 14,000	補 委 総務省消防庁 消防防災科学技術研究推進 制度
ウェーブレット変換に基づく心電図波形の高精度識別システムの実用化に向けた検証	山口 芳裕	救急医学	千円 1,100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円 300	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円 3,000	補 委 国立長寿医療研究センター 長寿医療研究開発費
中枢神経系悪性リンパ腫の遺伝子異常解析による病態と治療向上因子の解明	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円 1,100	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
DPC情報を用いた脳卒中大規模データベースによるベンチマーキングに関する研究	塩川 芳昭	脳神経外科学	千円 150	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
平成25年度ITK-1医師主導治験	永根 基雄	脳神経外科学	千円 350	補 委 久留米大学病院
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	永根 基雄	脳神経外科学	千円 500	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
稀少悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同試験	永根 基雄	脳神経外科学	千円 500	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
悪性神経膠腫に対するDNA修復機構阻害による抗癌剤増感治療法の開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円 1,500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	永根 基雄	脳神経外科学	千円 1,000	補 委 文部科学省 次世代がん研究戦略推進プロ ジェクト
仮想現実による頭皮投影型新規脳手術ナビゲーションシステムの開発	丸山 啓介	脳神経外科学	千円 1,200	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
悪性神経膠腫におけるIDH遺伝子異常の生物学的意義の解明	田中 雅樹	脳神経外科学	千円 900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	市村 正一	整形外科	千円 500	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	森井 健司	整形外科	千円 210	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
患者支援に基づくSJS/TEN後遺症の発症予防と治療法の確立	狩野 葉子	皮膚科学	千円 350	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
2型糖尿病での膵ラ氏島内マクロファージ浸潤の分子機構の解明とその予防戦略の構築	狩野 葉子	皮膚科学	千円 1,500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 55,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
重症型扁平苔癬の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
ヘルペスウイルスが引き金をひく炎症性疾患におけるパトロール単球の役割	塩原 哲夫	皮膚科学	千円 2,600	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経ペプチドのIgE依存性アレルギー反応に対する調節作用の解析	水川 良子	皮膚科学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
手術手技の最適化による標準治療確立のための多施設共同研究	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 300	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
顔面神経麻痺治療用埋め込み型随意筋電誘発機能的筋刺激装置の開発	多久嶋 亮彦	形成外科学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
増殖因子を用いた新しい瘢痕治療の開発	江藤 ひとみ	形成外科学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
動静脈奇形の発症・増大にかかわる病態生理の解明	栗田 昌和	形成外科学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
創傷治癒過程における単球・マクロファージ系細胞と線維芽細胞との相互作用の解明	菅 浩隆	形成外科学	千円 1,900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎盂尿管内病変の表記法についてー3Dプリンターを用いた新しい表記法の開発	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	千円 500	補 委 内視鏡医学研究振興財団 平成25年度研究助成
進行性腎障害に関する調査研究	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	千円 1,300	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
マイクロRNAを標的としたベージェット病における抗TNF抗体治療の分子機序の解明	岡田アナベルあやめ	眼科学	千円 1,600	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	岡田アナベルあやめ	眼科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
治験の実施に関する研究 [ブリリアントブルーG250]	平形 明人	眼科学	千円 1,600	補 委 社団法人日本医師会治験促進センター 治験推進研究事業
読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上-経網膜電気刺激(STS)法)の実用化	平形 明人	眼科学	千円 1,000	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
レチノイドを用いた眼炎症疾患における視神経、神経網膜保護の試み	慶野 博	眼科学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マイクロRNAを標的とした難治性網膜ぶどう膜炎の炎症制御の可能性	渡邊 交世	眼科学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
分子標的薬による頭頸部扁平上皮癌の転移抑制効果に関する研究	甲能 直幸	耳鼻咽喉科学	千円 2,000	補 委 一般財団法人 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 研究助成金
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	甲能 直幸	耳鼻咽喉科学	千円 400	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
癌・精巢抗原TBX101を分子標的とした頭頸部癌ミサイル療法の開発	横井 秀格	耳鼻咽喉科学	千円 200	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
広域における摂食・嚥下ケアの医療安全および質保証のための総合的管理システムの開発	唐帆 健浩	耳鼻咽喉科学	千円 50	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
蝸牛内完全埋込み型人工コルチ器作製へむけた人工シナプス形成を確立するための研究	増田 正次	耳鼻咽喉科学	千円 400	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
NO口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無作為化比較試験	小柏 靖直	耳鼻咽喉科学	千円 200	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
口腔癌の顎骨浸潤抑制に対してmTOR・COX-2による新たな治療法の開発	藏口 潤	耳鼻咽喉科学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プラズマによる細胞/組織の活性化・改善及び再生医療への応用展開	岩下 光利	産科婦人科学	千円 900	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
中心静脈カテーテル関連血流感染症撲滅のためのケアバンドル予防策徹底とその教育	萬 知子	麻酔科学	千円 700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
グラム陰性菌のV抗原及びその相同タンパクに対する血清疫学調査	森山 潔	麻酔科学	千円 200	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
JAK2遺伝子異常をもつ先天異常症候群の発症メカニズムの解明	渡邊 卓	臨床検査医学	千円 4,000	補 委 日本私立学校振興・共済事業団 大学間連携等による共同研究

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
JAK2遺伝子スプライシング異常をもつ新規症候群の発症メカニズムの解明	大西 宏明	臨床検査医学	千円 1,200	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生活習慣病の病勢や発症の危険性を超音波の新技术により画像的・定量的に評価する試み	岸野 智則	臨床検査医学	千円 1,700	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
医業ないし歯科医業停止処分対象となった医師・歯科医師の再教育のあり方に関する研究	野村 英樹	総合医療学	千円 4,395	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
たばこ政策推進基盤としてのがん専門医療機関を中核とした包括的な禁煙支援体制のモデル構築とその普及に関する研究	野村 英樹	総合医療学	千円 500	補 委 国立がん研究センター がん研究開発費
高齢者慢性疾患のケアに対する汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療の臨床的有効性	本間 聡起	総合医療学	千円 1,300	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
片麻痺と運動失調症の三次元書字運動解析—習熟運動と巧緻運動	岡島 康友	リハビリテーション医学	千円 500	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体異常のある子どもの保育—心疾患の影響—	赤木 美智男	医学教育学	千円 150	補 委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

計 97

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	要 伸也	内科学(I)	Immunopathologic co-localization of MPO, IgG, and C3 in glomeruli in human MPO-ANCA-associated glomerulonephritis.	Clinical Nephrology 2013;79(4):292-301.
2	要 伸也	内科学(I)	Diagnostic criteria for atypical hemolytic uremic syndrome proposed by the Joint Committee of the Japanese Society of Nephrology and the Japan Pediatric Society.	Clinical and Experimental Nephrology 2014; 18(1):4-9.
3	石井 晴之	内科学(I)	Molecular evolution of attachment glycoprotein(G) gene in human respiratory syncytial virus detected in Japan 2008-2011.	Infect Genet Evol
4	石井 晴之	内科学(I)	Clinical features of three cases with pulmonary alveolar proteinosis secondary to myelodysplastic syndrome developed during the course of Behcet's disease.	Respir Investig
5	石井 晴之	内科学(I)	Secondary pulmonary alveolar proteinosis complicating myelodysplastic syndrome results in worsening of prognosis	BMC Pulm Med
6	和田 裕雄	内科学(I)	A novel macrolide/fluoroketolide, solithromycin (CEM-101), reverses corticosteroid insensitivity via phosphoinositide 3-kinase pathway inhibition.	Br J Pharmacol
7	傳法 倫久	内科学(I)	Additional endovascular therapy in patients with acute ischemic stroke who are nonresponsive to intravenous tissue plasminogen activator: usefulness of magnetic resonance angiography-diffusion-weighted imaging	J Stroke Cerebrovasc Dis
8	傳法 倫久	内科学(I)	Opalski syndrome caused by vertebral artery compression of the lateral surface of the medulla oblongata.	Intern Med
9	倉井 大輔	内科学(I)	Mycoplasma pneumoniae extract induces an IL-17-associated inflammatory reaction in murine lung: implication for mycoplasmal pneumonia.	Inflammation
10	倉井 大輔	内科学(I)	Evidence for hypohydrosis as clinical clue to diagnosis of Horner's syndrome.	BMJ Case Rep
11	倉井 大輔	内科学(I)	Serial quantification of procalcitonin (PCT) predicts clinical outcome and prognosis in patients with community-acquired pneumonia (CAP).	J Infect Chemother
12	皿谷 健	内科学(I)	Hodgkin lymphoma with rapidly destructive, cavity-forming lung disease.	J Clin Oncol
13	皿谷 健	内科学(I)	Evidence for reactivation of human herpesvirus 6 in generalized lymphadenopathy in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome.	J Clin Microbiol
14	皿谷 健	内科学(I)	Phantom tumour of the lung.	BMJ Case Rep
15	皿谷 健	内科学(I)	Calcium oxalate crystal deposition in a patient with Aspergilloma due to Aspergillus niger.	J Thorac Dis
16	皿谷 健	内科学(I)	Familial summer-type hypersensitivity pneumonitis in Japan: two case reports and review of the literature	BMC Res Notes

17	皿谷 健	内科学(Ⅰ)	Non-syndromic brachydactyly, known as Shamoji-yubi or Mamushi-yubi in Japan.	BMJ Case Rep
18	皿谷 健	内科学(Ⅰ)	Evidence for cytomegalovirus-induced haemophagocytic syndrome in a young patient with AIDS.	BMJ Case Rep
19	皿谷 健	内科学(Ⅰ)	Cellular non-specific interstitial pneumonia masquerading as congestive heart failure	BMJ Case Rep
20	皿谷 健	内科学(Ⅰ)	Methicillin-resistant Staphylococcus aureus enterocolitis sequentially complicated with septic arthritis: a case report and review of the literature	BMC Res Notes
21	皿谷 健	内科学(Ⅰ)	Antemortem diagnosis with multiple random skin biopsies and transbronchial lung biopsy in a patients with intravascular large B-cell lymphoma, the so-called Asian variant lymphoma.	BMJ Case Rep
22	佐藤 徹	内科学(Ⅱ)	Medical Therapy of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension	Circulation Journal
23	坂田 好美	内科学(Ⅱ)	Cardiomyopathy.:progress in diagnosis and treatments. Topics: III. Diagnosis leading to selection of therapy; 3	Nihon Naika Gakkai Zasshi
24	伊波 巧	内科学(Ⅱ)	Pulmonary Edema Predictive Scoring Index(PEPSI), a New Index to Predict Risk of Reperfusion Pulmonary Edema and Improvement of Hemodynamics in Percutaneous	JACC Cardiovascular Interventions
25	上田 明子	内科学(Ⅱ)	Right atrial appendage and vestibule: further anatomical insights with implications for invasive electrophysiology.	Europace
26	上田 明子	内科学(Ⅱ)	Contemporary outcomes of supraventricular tachycardia ablation in congenital heart disease: a single-center experience in 116 patients	Circ Arrhythm Electrophysiol
27	上田 明子	内科学(Ⅱ)	Substrates of atrial arrhythmias: histological insights from patients with congenital heart disease	Int J Cardiol
28	南島 俊徳	内科学(Ⅱ)	Usefulness of right ventricular tissue Doppler imaging for diagnosis of right ventricular myocardial infarction	Journal of Echocardiography
29	三輪 陽介	内科学(Ⅱ)	Amiodarone Reduces the Amount of Ablation during Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation	Europace
30	石田 均	内科学(Ⅲ)	Endogenous oxidative stress, but not ER stress, induces hypoxia-independent VEGF120 release through PI3K-dependent pathways in 3T3-L1 adipocytes.	Obesity
31	石田 均	内科学(Ⅲ)	Possible involvement of PI3K-dependent pathways in the increased VEGF120 release from osteoblastic cells preloaded with palmitate.	Biochem Biophys Res Commun
32	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	Branched-chain Amino Acids Prevent Hepatocarcinogenesis and Prolong Survival of Patients With Cirrhosis	Clin Gastroenterol Hepatol
33	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	Randomised clinical trial: rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan	Aliment Pharmacol Ther
34	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	Trends of second-line eradication therapy for Helicobacter pylori in Japan: a multicenter study in the Tokyo metropolitan area	Helicobacter
35	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	New pharmaceutical treatment of gastric MALT lymphoma: anti-angiogenesis treatment using VEGF receptor antibodies and celecoxib	Curr Pharm Des

36	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	A questionnaire-based survey on the diagnosis and management of inflammatory bowel disease in East Asian countries in 2012	Digestion
37	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor	J Gastroenterol
38	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	Preliminary results of multicenter questionnaire study on long-term outcomes of curative endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer	Digestive Endoscopy
39	高橋 信一	内科学(Ⅲ)	Anti-CXCL13 antibody can inhibit the formation of gastric lymphoid follicles induced by Helicobacter infection	Mucosal Immunol
40	犬飼 浩一	内科学(Ⅲ)	Effects of long-term monotherapy with glimepiride vs glibenclamide on glycemic control and macrovascular events in Japanese type 2 diabetic patients.	J Diabetes Mellitus
41	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	High-resolution computed tomography findings for patients with drug-induced pulmonary toxicity, with special reference to hypersensitivity pneumonitis-like patterns in gemcitabine-induced cases	Oncologist
42	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	A multicenter phase II study of S-1 for gemcitabine-refractory biliary tract cancer,	Cancer Chemother Pharmacol
43	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Randomized Phase III Study of Gemcitabine Plus S-1, S-1 Alone, or Gemcitabine Alone in Patients With Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer in Japan and Taiwan: GEST Study	J Clin Oncol
44	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Serum levels of IL-6 and IL-1 β can predict the efficacy of gemcitabine in patients with advanced pancreatic cancer	Br J Cancer
45	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	A multi-institutional phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis	Cancer Chemother Pharmacol
46	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Randomized phase II study of gemcitabine plus S-1 versus S-1 in advanced biliary tract cancer: a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0805),	Cancer Sci
47	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Early relapse of unresectable gallbladder cancer after discontinuation of gemcitabine monotherapy administered for 5 years in a patient who had complete response to the treatment	Case Rep Oncol
48	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Cisplatin and gemcitabine for advanced biliary tract cancer: a meta-analysis of two randomised trials	Ann Oncol
49	古瀬 純司	内科学(腫瘍科)	Regorafenib in Japanese patients with solid tumors: phase I study of safety, efficacy, and pharmacokinetics	Invest New Drugs
50	春日 章良	内科学(腫瘍科)	Ultrasound-guided vs endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic cancer diagnosis.	World J Gastroenterol
51	春日 章良	内科学(腫瘍科)	Simultaneous endoscopic submucosal dissection for synchronous double early gastric cancer	Gastric Cancer
52	神崎 恒一	高齢医学	Priorities of Health Care Outcomes for the Elderly	JAMDA
53	神崎 恒一	高齢医学	Efficacy of combined use of three non-invasive atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated dilation of brachial artery and pulse wave velocity	Atherosclerosis
54	神崎 恒一	高齢医学	Efficacy of combined use of three non-invasive atherosclerosis tests to predict vascular events in the elderly; carotid intima-media thickness, flow-mediated dilation of brachial artery and pulse wave velocity	Atherosclerosis

55	神崎 恒一	高齢医学	Association of decreased sympathetic nervous activity with mortality of older adults in long-term care	Geriatr Gerontol Int
56	長谷川 浩	高齢医学	β 3-Adrenergic receptor antagonist improves exercise performance in pacing-induced heart failure	Am J Physiol Heart Circ Physiol
57	松井 敏史	高齢医学	Alcohol dehydrogenase-1B genotype (rs1229984) is a strong determinant of the relationship between body weight and alcohol intake in Japanese alcoholic men	Alcohol Clin Exp Res
58	松井 敏史	高齢医学	Genetic Polymorphisms of Alcohol Dehydrogenase-1B and Aldehyde Dehydrogenase-2 and Liver Cirrhosis, Chronic Calcific Pancreatitis, Diabetes Mellitus, and Hypertension Among Japanese Alcoholic Men	Alcohol Clin Exp Res
59	松井 敏史	高齢医学	Blood ethanol levels of nonabstinent Japanese alcoholic men in the morning after drinking and their ADH1B and ALDH2 genotypes	Alcohol and Alcoholism
60	松井 敏史	高齢医学	Efficacy of Disulfiram for the Treatment of Alcohol Dependence Assessed with a Multicenter Randomized Controlled Trial	Alcohol Clin Exp Res
61	松井 敏史	高齢医学	Macrocytosis, Macrocytic Anemia, and Genetic Polymorphisms of Alcohol Dehydrogenase-1B and Aldehyde Dehydrogenase-2 in Japanese Alcoholic Men	Alcohol Clin Exp Res
62	柴田 茂貴	高齢医学	Morning blood pressure surge is associated with arterial stiffness and sympathetic baroreflex sensitivity in hypertensive seniors	Am J Physiol Heart Circ Physiol
63	柴田 茂貴	高齢医学	The Effects of Age and Aerobic Fitness on Myocardial Lipid Content	Circ Cardiovasc Imaging
64	柴田 茂貴	高齢医学	Effects of sex and hypertension subtype on haemodynamics and left ventricular diastolic function in older patients with stage 1 hypertension.	J Hypertens
65	柴田 茂貴	高齢医学	Cardiovascular effects of 1 year of alagebrium and endurance exercise training in healthy older individuals.	Circ Heart Fail
66	柴田 茂貴	高齢医学	Neural-humoral responses during head-up tilt in healthy young white and black women	Front Physiol
67	柴田 茂貴	高齢医学	Neural-humoral responses during head-up tilt in healthy young white and black women	Front Physiol
68	田中 政道	高齢医学	Weight loss and homeostatic imbalance of leptin and ghrelin levels in lean geriatric patient	J Am Geriatric Soc
69	鬼頭 伸輔	精神神経科学	High-frequency left prefrontal transcranial magnetic stimulation modulates resting EEG functional connectivity for gamma band between the left dorsolateral prefrontal cortex and precuneus in depression.	1. Brain Stimulation
70	楊 國昌	小児科学	Expression of SLC2A9 Isoforms in the Kidney and Their Localization in Polarized Epithelial Cells.	PLoS One.
71	楊 國昌	小児科学	Functional analysis of NPHS1 mutations in Japanese patients.	Histol Histopathol
72	井本 滋	外科学	International multicenter tool to predict the risk of four or more tumor-positive axillary lymph nodes in breast cancer patients with sentinel node macrometastases.	Breast Cancer Res Treat
73	井本 滋	外科学	Use of the neo-adjuvant exemestane in post-menopausal estrogen receptor-positive breast cancer: a randomized phase II trial (PTEX46) to investigate the optimal duration of preoperative endocrine therapy.	Breast

74	上野 貴之	外科学	Evaluating the 21-gene assay Recurrence Score as a predictor of clinical response to 24 weeks of neoadjuvant exemestane in estrogen receptor-positive breast cancer.	Int J Clin Oncol
75	上野 貴之	外科学	Inter-observer concordance of Ki67 labeling index in breast cancer; Japan Breast Cancer Research Group (JBCRG) Ki67 Ring Study.	Cancer Sci
76	田中 良太	外科学	Diffusion-weighted imaging and positron emission tomography in various cytological subtypes of primary lung adenocarcinoma	Clinical Imaging
77	橋 啓盛	外科学	Immediate cytology improves accuracy and decreases complication rate in real-time computed tomography-guided needle lung biopsy	Diagnostic Cytopathology
78	吉敷 智和	外科学	Modified Glasgow prognostic score in patients with incurable stage IV colorectal cancer.	Am J Surg.
79	小暮 正晴	外科学	Deregulation of the histone demethylase JMJD2A is involved in human carcinogenesis through regulation of the G(1)/S transition.	Cancer Lett.
80	小暮 正晴	外科学	The oncogenic polycomb histone methyltransferase EZH2 methylates lysine 120 on histone H2B and competes ubiquitination.	Neoplasia.
81	永根 基雄	脳神経外科学	Bevacizumab for glioblastoma - a promising drug or not?	Cancers 5(4)
82	永根 基雄	脳神経外科学	Predictive value of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide-refractory malignant glioma to bevacizumab	Int J Clin Oncol DOI 19(1)
83	岡村 耕一	脳神経外科学	Edaravone, a free radical scavenger, attenuates cerebral infarction and hemorrhagic infarction in rats with hyperglycemia.	Neurological Reserch36 (1)
84	窪田 博	心臓血管外科学	Deep sternal wound infection after cardiac surgery.	Journal of Cardiothracic Surgery
85	森井 健司	整形外科	Functional analysis of cases of tumor endoprostheses with deep infection around the knee: a multi institutional study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG).	Journal of Orthopaedic Science
86	塩原 哲夫	皮膚科学	The role of viral infection in the development of severe drug eruptions.	Dermatologica Sinica (31: 205-210)
87	早川 順	皮膚科学	A syringotropic variant of cutaneous sarcoidosis -Presentation of 3 cases exhibiting defective sweating responses.	J Am Acad Dermatol (68: 1016-1021)
88	狩野 葉子	皮膚科学	Long-term outcome of patients with severe cutaneous adverse reactions.	Dermatologica Sinica (31: 211-216)
89	栗田 昌和	形成外科学	Recycle of temporal muscle in combination with free muscle transfer in the treatment of facial paralysis.	Journal of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery
90	栗田 昌和	形成外科学	Reinnervation of segmented latissimus dorsi muscle with the distal stump of the thoracodorsal nerve: A preliminary experimental study in rats.	Microsurgery
91	桶川 隆嗣	泌尿器科学	Orphan nuclear receptor HNF4G promotes bladder cancer growth and invasion through the regulation of the hyaluronan synthase 2 gene.	Oncogenesis
92	多武保 光宏	泌尿器科学	Predictors of septic shock in obstructive acute pyelonephritis.	World J Urol

93	岡田アナベルあやめ	眼科学	Two-year outcomes of pro re nata ranibizumab therapy for exudative age-related macular degeneration in Japanese patients.	Clinical Ophthalmology
94	岡田アナベルあやめ	眼科学	The SUN Project: the future is here.	JAMA Ophthalmol
95	岡田アナベルあやめ	眼科学	Enhanced depth imaging optical coherence tomography of the choroid in new-onset acute posterior scleritis.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol
96	岡田アナベルあやめ	眼科学	Maintenance therapy with pegaptanib sodium for neovascular age-related macular degeneration: an exploratory study in Japanese patients (LEVEL-J study).	Jpn J Ophthalmol
97	岡田アナベルあやめ	眼科学	A Randomized Controlled Study of Ranibizumab in Patients with Choroidal Neovascularization Secondary to Pathologic Myopia.	Ophthalmology
98	岡田アナベルあやめ	眼科学	Behcet's disease ocular attack score 24: evaluation of ocular disease activity before and after initiation of infliximab.	Jpn J Ophthalmol
99	平形 明人	眼科学	Correlation between foveal cone outer segment tips line and visual recovery after epiretinal membrane surgery.	Invest Ophthalmol Vis Sci
100	平形 明人	眼科学	Vitrectomy with or without internal limiting membrane peeling for each stage of myopic traction maculopathy.	Retina
101	平形 明人	眼科学	Evaluation of congenital optic disc pits and optic disc colobomas by swept-source optical coherence tomography.	Invest Ophthalmol Vis Sci
102	山田 昌和	眼科学	Evaluation of the frequency of ophthalmic solution application: washout effects of topical saline application on tear components	Curr Eye Res.
103	山田 昌和	眼科学	Development of a Short Version of the Visual Function Questionnaire Using Item-Response Theory.	PLoS ONE
104	池田 哲也	耳鼻咽喉科学	Epstein-barr virus diversity in immunocompetent healthy persons: reassessment of the distribution of genetic variants.	Med Virol 86(2)
105	増田 正次	耳鼻咽喉科学	Cause of idiopathic sudden sensorineural hearing loss.	World journal of Otorhinolaryngology 3(3)
106	佐藤 大	耳鼻咽喉科学	Phase I study of nedaplatin prior to S-1 in patients with locally advanced head and neck squamous cell carcinoma.	Chemotherapy 59 (4)
107	宮崎 典子	産科婦人科学	Burkitt lymphoma of the ovary: a case report and literature review.	J. Obstet. Gynaecol. Res
108	田中 啓	産科婦人科学	Prenatal Diagnosis of Umbilical Thrombosis	Clinical Advances and Basic Research)
109	横山 健一	放射線医学	Evaluation of dual-channel and 4-port multi transmit technique in 3T MRI: Implications for cardiac SSFP cine MRI.	Japanese Journal of Diagnostic Imaging
110	河合 伸	総合医療学	Evidence for cytomegalovirus-infected haemophagocytic syndrome in a Young patient with AIDS	BMJ Case Rep. 2013
111	山田 深	リハビリテーション医学	Omoto M, Matsuse H, Takano Y, Yamada S, Ohshima H, Tagawa Y, Shiba N : Oxygen Uptake during Aerobic Cycling Exercise Simultaneously Combined with Neuromuscular Electrical Stimulation of Antagonists	J Nov Physiother 3:185: 3-6, 2013

112	山田 深	リハビリテーション医学	Matsuse H, Shiba N, Takano Y, Yamada S, Ohshima H, Tagawa Y: Cycling exercise to resist electrically stimulated antagonist increases oxygen uptake in males: Pilot study	J Rehabil Res Dev. 50: 545-554, 2013
-----	------	-------------	--	--------------------------------------

計 112

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	なし			
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 別紙参照①	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 別紙参照②	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 3 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 別紙参照③	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

杏林大学医学部附属病院は、2年間の初期臨床研修修了後から専門医取得の頃までの医師の教育体制を「人材育成プロジェクト」としてホームページなどに明示している。人材育成プロジェクトの目的は、①高度の専門的な診療能力（専門としてのプライマリ・ケアを含む）、②研究心・研究能力、③後進を適切に指導する能力の育成であり、これに基づいて各診療科が「専門研修プログラム」を作成、公開している。

プログラムには、年次ごとの研修目標・指導体制・研修評価および将来取得できる可能性がある専門資格などについて記載されており、プログラムに基づいて研修が行われる。人材育成プロジェクトの成果である専門医資格取得者や学位（医学博士）取得者については、病院年報に記載されている。

2 研修の実績

研修医の人数	120人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
滝澤 始	呼吸器内科	教授	34年	
吉野 秀朗	循環器内科	教授	36年	
高橋 信一	消化器内科	教授	37年	
石田 均	糖尿病・内分泌・代謝内科	教授	35年	
高山 信之	血液内科	教授	29年	
有村 義宏	腎臓・リウマチ・膠原病内科	教授	35年	
千葉 厚郎	神経内科	教授	28年	
河合 伸	感染症科	教授	34年	
神崎 恒一	高齢診療科	教授	27年	
渡邊 衡一郎	精神神経科	教授	25年	
楊 國昌	小児科	教授	33年	
杉山 政則	消化器・一般外科	教授	36年	
近藤 晴彦	呼吸器・甲状腺外科	教授	32年	
井本 滋	乳腺外科	教授	28年	
菟澤 融司	小児外科	教授	37年	
塩川 芳昭	脳神経外科	教授	31年	
窪田 博	心臓血管外科	教授	27年	
市村 正一	整形外科	教授	33年	
塩原 哲夫	皮膚科	教授	40年	
波利井 清紀	形成外科・美容外科	教授	45年	
奴田原 紀久雄	泌尿器科	教授	35年	
平形 明人	眼科	教授	31年	
甲能 直幸	耳鼻咽喉科	教授	39年	
岩下 光利	産婦人科	教授	38年	
似鳥 俊明	放射線科 (診断)	教授	35年	
高山 誠	放射線科 (治療)	教授	37年	

麻酔科	萬 知子	教授	29年
救急科	山口 芳裕	教授	27年
A T T 科	松田 剛明	教授	20年
腫瘍内科	古瀬 純司	教授	29年
リハビリテーション科	岡島 康友	教授	33年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①クリティカルケア看護公開講座プログラム ②杏林メディカルフォーラム ・研修の期間・実施回数 ①7/27、8/31、12/7、1/18 ②2/15 ・研修の参加人数 ①335人 ②322人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①医療安全管理セミナー ②委託・派遣職員教育研修 ・研修の期間・実施回数 ①5/22、6/20、7/23、8/26、9/24、9/27、10/23、11/21、12/25、1/27、2/28、3/19、3/20 ②5/17、5/20、5/21、5/24 ・研修の参加人数 ①2,659人 ②590人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 クリティカルケア看護公開講座プログラム ・研修の期間・実施回数 7/27、8/31、12/7、1/18 ・研修の参加人数 858人

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 甲能 直幸
管理担当者氏名	医療安全管理部長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、事務部長 山崎 昭、野尻 一之 庶務課長 天良 功、医事課長 田中 長文、薬剤部長 永井 茂 診療情報管理室長 井本 滋、検査部長 渡邊 卓 放射線部長 似鳥 俊明、検査部技師長 高城 靖志 放射線部技師長 大戸 真喜男、医学部事務部副部長 浅野 稔

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		関係各部署	入院、外来等については、一患者一ファイル方式とし、管理している その他諸記録は個別に電子・紙媒体にて管理している 診療録の病院外への持ち出しは禁止している	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	担当部門、診療科等において、コンピュータ又はファイル等により保管、管理している	
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部		
	高度の医療の研修の実績	各診療科		
	閲覧実績	庶務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 薬剤部		
	第規一則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部
	号第一	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部
	掲条の	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部
る十体	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		
制第一	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部		
確項保各	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部		
の号状及	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部		
況第九	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部		
条の二十			医療安全管理・院内感染対策とともに、専任者の配置・部門の設置・指針の整備及び策定・相談体制は、業務遂行のための基本体制の整備事項として分類し、当該マニュアルに記載の上、毎年更新している。 同様に、委員会の開催状況・研修の実施状況・改善方策の実施状況は、運用確認事項として分類し、それぞれの専用ファイルで管理している。	
第一項				

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	担当部門において、コンピュータ又はファイル等により保管、管理している
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 甲能 直幸
閲覧担当者氏名	医療安全管理部長 高橋 信一 看護部長 道又 元裕、事務部長 野尻 一之、山崎 昭 庶務課長 天良 功、医事課長 田中 長文 薬剤部長 永井 茂、診療情報管理室長 井本 滋 検査部長 渡邊 卓、放射線部長 似鳥 俊明 検査部技師長 高城 靖志、放射線部技師長 大戸 真喜男 医学部事務部副部長 浅野 稔
閲覧の求めに応じる場所	事務部 応接室、病院庶務課 事務室 他
閲覧の手続の概要	規程を策定している。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容 医療安全管理の基本的考え方。リスクマネジメント委員会、医療安全管理部の主な役割、医療安全管理のための職員研修実施の基本方針。事故発生後の対応方針。医療従事者と患者及びその家族等との情報共有の基本方針、他。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容 インシデント事例等の原因分析、改善策立案及び職員への周知。リスクマネジメント委員会で立案した改善策の実施状況調査と見直し。職員研修の企画・実施。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 3 回
・ 研修の主な内容 医療安全管理に関する基本的な考え方と具体的方策及び職員の責務、当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策等	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 専任リスクマネージャー・各部署リスクマネージャーの職場巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、インシデントレポートの検討・改善策の立案、院内広報誌での改善策の周知徹底、e-ラーニングによる理解度の確認及び評価、医療安全情報(医療機能評価機構)等の伝達、学内LANへの重要な決定事項の掲載、他。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任(10)名 兼任(30)名 ・ 活動の主な内容 リスクマネジメント委員会で用いられる資料、議事録の作成・保存及び委員会の庶務。事故等に関する診療録・看護記録等の記載内容確認及び指導。事故発生時の患者等への対応状況の確認及び指導。事故等の原因究明の適切な実施の確認及び指導。医療安全に関する連絡・調整、他。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容 院内感染防止対策に関する基本的考え方。院内感染防止委員会・ICTの役割。 院内感染防止対策のための職員研修実施の基本方針。院内感染発生時の報告と対策に対する基本方針。指針改定及び閲覧に関する基本方針。他</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容 重大な院内感染発生時の原因分析、改善策立案及び職員への周知、院内感染防止委員会・ICTで立案した改善策・指導の実施状況調査と見直し。職員研修の企画、実施。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容 院内感染防止に関する基本的な考え方。感染症発生時の対応方法。当院及び他の医療機関で発生した事例の原因と改善策。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 ICT、ICMの病棟巡視による改善策の実施状況の確認及び再評価、e-ラーニングによる理解度確認及び評価、学内LANへの重要な決定事項の掲載、インフェクションコントロールマネージャー(各部署の院内感染担当者)を通じた決定事項の伝達と評価。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容 リスクマネジメント講習会 「医薬品の安全管理について」 医薬品・医療安全に関する情報源 医療安全管理セミナー 「インスリン注射の選択・薬剤管理と投与方法について」 医療安全管理セミナー 「抗菌薬使用の注意点」「薬物乱用と危険ドラッグ」 看護師が行う静脈注射 「薬剤の基礎知識について」 研修医オリエンテーション 「処方せんの記載方法について」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (○有・無)・ 業務の主な内容 手順書に基づく業務の実施状況については、「実施確認チェック表」を使用して部署別リスクマネージャーが実施確認を行い、それを医薬品安全管理責任者が確認し、問題がある場合は個別に対応して手順書に基づく業務の実施について周知している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容<ul style="list-style-type: none">・ 注射個人セットの施用ラベルにバーコード印字を入れて、患者認証を開始した。・ 抗凝固薬など手術前の休薬期間が必要な医薬品の目安について、改訂版を作成し周知した。・ ハイリスク薬の改修版を作成した。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容 医療機器の説明及び、使用方法について (特定医療機器に関して年2回以上の計画をたて、それに沿って行っている) (特定医療機器：人工呼吸器・血液浄化器・除細動器・閉鎖式保育器など)	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容 機器毎の保守点検マニュアルに沿って、日常点検及び定期点検。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容 添付文書・取扱説明書等は、臨床工学室で担当者を決めて保管・管理を行う。 安全性情報等は病院管理部及び臨床工学室で情報収集し、医療安全管理部と連携する。 医療機器の不具合情報を入手した場合は速やかに関連部署に連絡し医療機器安全管理責任者・医療機器管理委員会・医療安全管理部に連絡し必要な対応を行う。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による認定 (平成26年3月)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ、病院ニュース、病院年報などにより患者や医療関連施設などに対し定期的に情報発信を行っている。また、同様に診療実績も同様に発信し、定期的に更新を行っている	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療推進委員会・医療内容事前審査委員会などが組織され、がんボードやモーニングカンファレンスなどで診療科の枠を超えた検討会を開催している。	

(様式第 8)

杏学発 第 26-107 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 杏林学
理事長 松田 博

杏林大学医学部付属病院の紹介率及び逆紹介率の向上に関する年次計画について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日	
紹介率	48.1%	逆紹介率	24.8%
算出根拠 A: 紹介患者の数			21,798 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			13,620 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			4,577 人
D: 初診の患者の数			54,817 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、C の和を D で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、B を D で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

3 A、B、C、D は、それぞれの前年度の延数を記入すること。

2 紹介率及び逆紹介率向上のための基本方針と向上のための具体的な予定措置

患者紹介元となる関連医療機関は年間約 4000 施設である。また、多摩地区虚血性心疾患研究会、多摩腎疾患研究会、多摩周産期医療協議会、城西画像研究会、認知症連携を考える会や糖尿病医療連携検討会等で中心的役割を果たし、人材派遣は東京都を始め、近隣の市や地区医師会等への委員・講演会講師派遣等多数に及び、地域医療に積極的に貢献している。

院内には地域医療連携係を設置し、地域医師会との連携及び登録医制度の運用、患者紹介・逆紹介の対応、地域連携パス（大腿骨頸部骨折・脳卒中）、医療連携手帳（がん）の運用等を行っている。今後、地域医療機関に対しての現状確認、当院への要望・評価を調査するアンケートを行うことで、地域医療機関のニーズ等を積極的に収集し、連携機能の更なる強化を図る。

(注) 「紹介率」又は「逆紹介率」のうち、承認要件を満たしていないものについてのみ記載すること。

3 年次計画

(1) 紹介率

計画期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
年次目標紹介率	第1年度 (平成 年度)		・ %
	第2年度 (平成 年度)		・ %
	第3年度 (平成 年度)		・ %
	第4年度 (平成 年度)		・ %
	第5年度 (平成 年度)		・ %

(注) 「紹介率」が、承認基準を満たしていない場合についてのみ記載すること。

(2) 逆紹介率

計画期間	平成 26年 4月 1日 ~ 平成 27年 3月 31日		
年次目標紹介率	第1年度 (平成26年度)		40.00 %
	第2年度 (平成 年度)		・ %
	第3年度 (平成 年度)		・ %
	第4年度 (平成 年度)		・ %
	第5年度 (平成 年度)		・ %

(注) 逆紹介率が、承認要件を満たしていない場合についてのみ記載すること。